



研究テーマ : 幼稚園・保育所等に在籍する外国籍乳幼児の保護者支援、園と保護者相互理解の方策

研究者 : 古野 愛子

KONO Aiko

(経営経済学部 経営経済学科 准教授)

【研究・開発の概要と目的】

保育現場では、外国籍の乳幼児の急増に伴い、外国籍の保護者の適応問題や保育者の保護者対応での「困り感」の問題に対処することが急務である。本研究では、幼稚園・保育所等に在籍する外国籍の乳幼児の保護者の意識（園に対する満足感・不満感とその内容および理由、疑問、要望など）を明らかにする。その結果と母国の文化習慣、幼児教育の特性を踏まえて、保護者向けの手引きを作成・配布し、効果について検証する。

(科研費基盤研究(c) 助成事業2020～2023年度3年間、共同研究者として参加)

【研究・開発のきっかけ】

保育現場において、外国籍の乳幼児が急増しているにも関わらず、外国籍の保護者の適応問題や保育者の保護者対応において、北九州市で調査した結果、言語、文化、生活習慣等の違いにより、困っている状況があることがわかった。これらの「困り感」の問題に対処することが急務の課題であると考えたため、本研究に着手することにした。

【研究・開発の特色】

本研究では、幼稚園・保育所等に在籍する外国籍の乳幼児の保護者の意識（園に対する満足感・不満感とその内容および理由、疑問、要望など）を質問紙調査とインタビュー調査によって明らかにする。その結果と母国の文化習慣、幼児教育の特性を踏まえて、保護者向けの手引きを作成・配布し、効果について検証することを特色とする。

【今後の展開】

上記に加え、さらに、保育者向けの「外国籍保護者対応の手引き」の効果について検証する。本研究は、幼児教育学、発達心理学等、多くの分野の研究者が連携し、中国、韓国、タイ、エジプト、ベトナムの研究者からも研究協力を受ける。そのため、各国に対応した文化、生活習慣、言語等に対応した各国版に翻訳した手引きも作成する。

【今後の課題】

幼稚園・保育所だけでなく、社会福祉施設においても外国籍の利用者は増えてきているので、お互いを理解するためにも、多文化教育が必要となってきます。

【地域・企業へのメッセージ】

今後、幼稚園・保育所問わず、社会福祉施設等においても、外国籍の利用者、労働者等が増えてきます。お互いを理解するためにも、それぞれの国のことを知る多文化教育が必要で、その学びを地域で生かし、地域社会全体で支えていく活動をしたいと思っています。地域・企業の皆様には、様々な研究活動を通して、色々な関わり、ご支援・ご協力をいただければ幸いです。どうぞよろしくお願いたします。